

## 熊本大学学術リポジトリ

### Kumamoto University Repository System

Title	薔薇：和歌：文苑
Author(s)	章鳳；芒村
Citation	龍南會雜誌， 1 1 2： 4 4 - 4 5
Issue date	1905-06-19
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2298/5841">http://hdl.handle.net/2298/5841</a>
Right	

試みの野に導くと

一條見ぬ矢を放ち

行く手はるけき東の

しるべの星を碎きたり

(卅八年月廿一日)

# 和歌

## 薔薇

○

章

鳳

あこれの三人に歌の幸なくて小き花の室は冷ねゆく  
 小きを我天地と思ひては歌の領足る鉢植うばら  
 朝あけや我が室はだゝ香にゆるくうばら一もと歌にさめしか  
 血のゆらぎ香のゆらぎいづれ紅や薔薇を讀じて笑む子は二十  
 ともすれば悶ね心の寂莫に口つけて見る涙なくして  
 詩の興に夜のしじまを身にしめて獨笑まひを紅にみる  
 歌のはまれいづれ我が身にあるべしと告げ給はばや紅うばら

大輪の紅落ちて夜たけぬ天に歸るのその香ゆらゆら  
西にしては女王に誇る紅をさびし此春歌にふさはじ  
舞姫の驕りの色に抱かれて短かき生を笑むかくれなる

○

芒

村

行春の雨なくめなる夕暮を音なく薔薇の花くづれゆく  
人の世のきよけき戀をそめいでふあしたなつかし紅うはら  
くだけゆく朝の露にひびきありかくてうばらの色なからずや  
大空の御苑の春の月姫が白日まひるの夢の色か白薔薇

青海長雲暗雪山  
黄沙百戰穿金甲

孤城遙望玉門關  
不破樓蘭終不還

(王昌齡)

